



やまびこ

第19号

発行
 社団法人和歌山県青少年育成協会
 〒640-8319
 和歌山県和歌山市手平2-1-2
 県民交流プラザ和歌山ビッグ愛9階
 TEL:073-435-5236 FAX:073-435-5238
<http://wpyda.org/>

この度の震災により被害を受けられた皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復旧をお祈り申し上げます。

県内の中学生が、日々の生活の中で何を感じ、どのような想いを抱いているのか、また、将来の夢などの想いをメッセージに…

「少年メッセージ2010」和歌山県大会

開催日●平成22年7月31日(土)
 開催場所●和歌山県民文化会館
 発表者数●18名(応募者数12,771名から優秀者)
 観客数●約450名
 司会・運営●和歌山大学教育学部附属中学校 等
 アトラクション●(社)和歌山県青少年育成協会
 太鼓教室「大和魂」16名

発表者は全員中学生。地方予選会を通過して県大会に出場しているというものの非常に緊張したと思います。そのプレッシャーの中で、人前で自分の考えを伝えるということは、なかなか難しいですが、みなさん、内容がすばらしく、ほとんどの発表者が原稿を見ない堂々とした発表でした。

毎年、子どもたちが主役となり、盛り上げてくれる本大会は、多くの方々の協力と支援で成り立っています。



少年メッセージカナダ研修 (財)和歌山県青年館記念事業

平成23年3月24日～31日まで少年
メッセージ上位入賞者8名で、カナ
ダへの研修を実施しました。



感想 海外研修をして

今回の二週間の海外研修で、私は多くのことを学び、経験することができた。

カナダへ着いてまず最初に思ったことは、町並みがとても綺麗だということだ。青々とした空、風に揺らぐ木々、遠くに見えるまだ少し雪が残った山々。全てが新鮮で、空気がとても美味しかった。

私はカナダへ行くことが決まってから、ずっと不安に思っている事があった、それは、英語だ。

私は英語が苦手でカナダのホストファミリーやお店の人と会話が成り立つか心配だった。実際行ってみると案の上しゃべることができない。

限られた単語しか知らないのに、伝えたい事を正確に伝える事ができない。こんなもどかしさを、何度も感じた。しかし、大切なのは伝えようとする気持ちだ。携帯の辞書を片手に一生懸命振り回し手振りで話そうとすると、相手も私の片言の英語に耳をかたむけ、理解しようとしてくれた。伝わりと、何とも言えない、達成感を感じた。

また、カナダの人達はみんな、日本人よりもフレンドリーだった。初めて会う私たちにも親しく話しかけてくれて、うれしかった。いつもニコニコしていて、お店で私が何を買い迷っている時でも、必ず声をかけてくれた。この海外研修は、私にたくさん貴重な体験をさせてくれた。しかし、苦労することもたくさんあった。



先程のべたように、英語の苦労は勿論、文化や習慣の違いからくるとまじいや、食生活の違い、日本とは違う事はかりだ。けれども、今まで日本という小さな国からしか広がらなかった視野が、世界という大きな観点で物事を見つめる事で、広がったような気がした。

また、国を超えた人との絆も結ぶことができた。たった二週間の旅ではあつたけれども、私の中で何かが変わったことは確かだ。

それに、私には新たな夢ができた。それはもともと英語を話せるようになってから、もう一度カナダの地を踏みしめること。その時、自分の大きな成長を感じることができるとは思っていないだろうか。

この海外研修を通して、私が一番思った事は、「伝えようとする気持ちをもつこと」である。また、日本のこともよく知ることでもある。私は、まだまだ日本のことを知らないと思う。母国の事をよく知っていないと、他の国に目を向けることなど、到底できないのだ。

カナダへ行った体験は、私の一生忘れる事のできない、大切な思い出となるだろう。新たな夢に向かって、日々努力をしていこうと思う。

少年メッセージ2010和歌山県大会



和歌山県立
日高等学校附属中学校
3年 角 冴佳

「父の仕事」

角 冴佳

私の両親は私が幼い頃に離婚し、私は父方の祖父母に育てられています。父は事情があつて別の所に暮らしています。

私の父は、特別養護老人ホームの調理師をしています。一ヶ月の間に休日数は数日しかありません。そんな父について祖母がよく私に話してくれました。父が学生の頃、勉強にしっかり取り組まなかったこと、大学へは行かないと言ったこと…。だから、父の印象は、私の中で、自然と「教養のない人」というイメージになってしまっていました。

また祖父も、「勉強しなかったら、良い仕事に就けないぞ。お前の父親のようになるぞ。叔父さんは大学へ行ったから、兄より給料が良いんだ。」と言っていました。確かに、父の給料は叔父よりは良くないと聞いています。だから、私はこれまで、祖父の言葉に疑問を抱いたことはありませんでした。

最近、私は中学校で担任の先生に勧められてある本を読みました。その本には、私と似たような感情を持っている女性のことが書かれていました。その女性は夫に対し「教養がない」「思慮が浅い」などの感情を抱いていました。また、夫の仕事についてもあまりよく思っていないものでした。しかし、彼女は自分の心を見つめ直す中で、夫の温かい人柄に気づき、感謝と尊敬の念を抱くようになり、深さで決まるものではないとわかったのです。私は読んだ後、自分の中で父に対する思いが少し変わっていることに気づきました。

全ての仕事に意味があるのです。また、父は、私達の生活のために一生懸命働いてくれているのです。教養だけがすべてだと思っていた自分が、恥ずかしくなりました。

そんな時、新聞でこんな記事を見つけました。「特別養護老人ホームに入れないお年寄りが大勢いる。」というものでした。そこでの働き手が少ないために、入りたくても入れないお年寄りの方がたくさんいるのです。この時、私の心の中にはある思いで一杯になりました。父は人を助けるという素晴らしい仕事に就いている。父はすばらしい人である。私はこの瞬間、初めて父を心の底から尊敬することができました。なぜだかわかりませんが、うれしくて仕方がありませんでした。

私は今、学校で、仕事について学んでいます。そして、「人は何のために働くのか」

また、「自分は将来どのような仕事に就きたいのか」を真剣に考えるようになりました。これまで私の頭の中には、「いい仕事」「給料がいい」という方程式が出来上がっていたように思います。しかし、一つの本との出会い、新聞記事との出会いがその考えを変え、今では、「いい仕事」「人のために働くこと」という方程式になつてきています。

今、私は将来、医療機関の仕事に就きたいと考えています。人のために何かをしたいという考えからです。人を救えることができる仕事は人を幸せにすることにも通じると思っています。私は、人を幸せにできる仕事があるなら、それはとても素敵だと思っていました。3年生で行われる職場体験学習でも近くの病院に行くことにしています。父が老人ホームで働いていることが、今の私の仕事についての考え方につながったのです。父は、人を助け、周囲の人に影響を与えながら仕事をしていると思うと、今まで以上に私にとって父は尊敬すべき人なのだと感じます。

私も、父のように人の役に立てる仕事に就き、自分の子どもにも尊敬されるような大人になりたいと思います。そのために、色々な経験をつみ、さまざまな人のことを知り、たくさん知識を自分の中に取り入れていきます。今自分出来る事に全力で向かい合い、人を思いやれる大人になれるよう頑張っていきます。

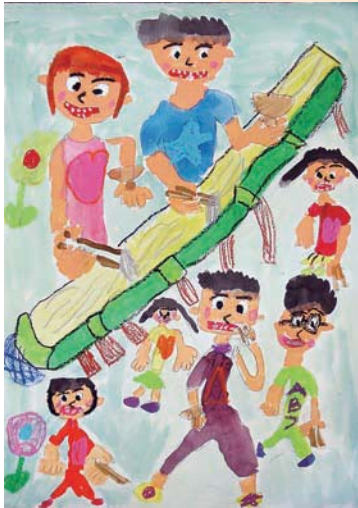
- 銀賞 ●「生きる」こと 和歌山県立桐蔭中学校 2年 笈川 望 / ●新しい家族 田辺市立明洋中学校 3年 清水 雅香
銅賞 ●お隣の国と私 和歌山県立古佐田丘中学校 3年 白須賀 奈菜 / ●知る事の大切さ かつらぎ町立笠田中学校 3年 金城 朱璃 / ●中学校生活 有田市立箕島中学校 3年 三木 愛海
特別賞入賞 ●人と人をつなぐ言葉 印南町立印南中学校 3年 森 愛莉 / ●友達 田辺市立東陽中学校 1年 宮野マリア シャイナ
●人徳水 和歌山県立日進中学校 2年 浅田 奈実 / ●言葉の力 和歌山県立紀伊中学校 1年 植田 尋子 / ●幸せは一本の鉛筆から 開智中学校 1年 水崎 太郎 / ●初めての挑戦! 海南市立第三中学校 3年 塩崎 大輝 / ●地域のために 紀美野町立長谷毛原中学校 3年 向井中 伶 / ●責任感のある人生を 紀の川市立打田中学校 2年 藤永 愛未
●ひとり暮らしの伯母 岩出市立岩出中学校 3年 村中 伽於厘 / ●個性を認め合うこと 広川町立耐久中学校 3年 西端 美咲 / ●戦争と家族 新宮市立熊野川中学校 3年 竹田 朱里 / ●新たな自分へ 那智勝浦町立下里中学校 3年 前田 ゆづき *学校名、学年は、大会当時。

平成23年度は、7月30日(土)13時30分から橋本市教育文化会館で開催します。是非、中学生の真剣なメッセージを聞きに来てください!!きっと感動します!!

平成22年度家庭の日啓発促進事業「家庭の日絵画コンクール」

和歌山県では、「ふれあいとやすらぎのある家庭づくり」を推進することを目的に、毎月第3日曜日を「家庭の日」と定め、啓発活動を行っています。

今年も温もりや優しさが
いっぱい感じられる作品が勢ぞろい



●ファミリー賞

「みんなで流しソーメン楽しいな」
新家大地 (有田川町立藤並小学校1年)



●ふれあい賞

「家族といれば雨の日も」
上田あすか (すさみ町立周参見中学校1年)



●やすらぎ賞

「ぼくの家族カブト虫」
岡本滉生 (和歌山市立山口小学校4年)

毎月第3日曜日は家庭の日

それぞれの家庭日 それぞれのご家庭に



「家族そろって新入生」

県内の小学校入学前の年長年齢児童の保護者全員にお配りしているリーフレット。

和歌山大学米澤好史教授や信愛女子短期大学室みどり教授、その他経験豊かな編集委員の先生にご協力いただき5年目となりました。「保護者の方も、不安になることなく子どもと一緒に新しい環境へ踏み出せるように」という熱い想いが込められています。

☆リーフレットは当協会ホームページに掲載しています。